

豊かな教育を子どもたちに

I 研究内容

1 研究の具体的内容与方法

- (1) 甲州支会と山梨支会に別れ、それぞれの合併後の課題について研究を進めた。
 - ア 甲州支会…「予算・補助金」「備品台帳」「様式・事務処理要綱」の3分散会で研究。「財務PCマニュアル」の検討。
 - イ 山梨支会…「予算分析」「管理用備品分類表」についての研究。
- (2) 東山梨教育白書の作成に協力するため「教育財政の実態」「教育環境の実態」についての調査。

II 成果と課題

1 成果

(1) 甲州支会

昨年度の反省に基づき早急に取り組むべき課題として「予算・補助金」「備品台帳」「様式・事務処理要綱」の3分散会に別れ、諸帳簿等の形式の統一に向けて研究を進めてきた。また、「財務PCマニュアル」の検討も行った。これにより、新しく入ってきた事務職員にもすぐ役立つものと思われる。

研究内容とは別になるが、今年度から毎月1回の「事務打ち合わせ会」で甲州市教育委員会と各校の連絡調整を行える場が設定された。

「予算・補助金」では、基本線を統一した予算要求書を各校で作成し、予算要求時に活用することができた。

「備品台帳」では、甲州市で行っている備品の台帳管理からパソコン管理に移ることから、旧市町村で購入した備品についての登録方法や新規購入備品の財務PCからの備品登録方法の確認をすることができた。

「様式・事務処理要綱」では、合併協の学校事務部会で提案した標準書式を参考に、甲州市の学校管理規則及び学校処務規程等と照らし合わせ、統一した標準書式を作成した。学校内の職員が利用できるように、記入例を添付した書式集を作成することができた。

「財務PCマニュアル」では、甲州市になって各所属に配置された財務パソコンのマニュアルを完成することができた。

(2) 山梨支会

合併2年目となった今年度は「予算分析」と「管理用備品分類」に焦点を当てた研究を進めてきた。これにより、各校の実態を把握することができた。

「予算分析」では、自校の状況を把握し分析するのに役立ち、学校間の比較や市全体としての傾向を読み取ることができた。

